

令和3年度第1回釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事要旨

日時: 令和3年8月25日(水)13時30分~15時20分

場所: 釧路市役所防災庁舎5階災害対策本部室

1 開会

・「釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 設置要綱」第6条第2項の規定により、委員10名中7名出席につき、過半数の委員の出席があったため、当会議成立を確認。

2 市長あいさつ

3 議事 <以下、質疑応答【◎…議長 ○…委員 ●…オブザーバー ■…釧路市】>

(1) 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進状況等について

・事務局より【資料1】「第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像」、【資料2】「KPI(重要業績評価指標)の状況」、【資料3】「基本目標ごとの施策及び具体的事業の進捗について」、(参考資料)「令和2年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業一覧」をもとに説明

(質疑応答)

- ◎ KPI の状況で創業者数が伸びない要因が、新型コロナウイルス感染症の影響により創業に踏み切れないと記載されているが、昨年度釧路公立大学地域経済研究センターと釧路市が共同で調査したところ、釧路は廃業が多い訳でなく、創業が少なすぎるのが人口減少につながっているのではないかと分析し、創業しやすい環境の必要性など問題提起した。この創業者数は市の制度を活用して創業した方ということか。
- 商業労政課が有している創業支援制度や k-Biz などを利用された方をカウントしている。
- ◎ コロナにより例年に比べて制度を使う方が減ったという認識か。
- すべて確認できている訳ではないが、要因の大きな理由の一つだと認識している。
- ◎ 制度を活用しないで創業される方も多くいるとは思いますが、釧路市の事業者がどんどん減っていくというのが非常に大きな問題。創業や立地、経済活性化の原点でもあり、こういう観点から施策を進めてもらいたい。
- この何年間で特にこの部分に力を入れていきたいというようなものがあれば教えてください。
- 生産活動や経済状況が上向かない中で、それらを改善しなければ、人口減の抑制や人口の維持につながらないと考えている。解決のひとつとして、地域にお金をもっと入っていくような形がとれる1次産業の高付加価値化に力を入れていきたい。経済が成長できる分野に対し、支援やお手伝いをしていきたい。
- 付加価値を高めるために今具体的にどのような取組を行っているのか。これからどんなことをしていくのか。
- 今現在、形になっている事業はなく、これからこの分野に力をいれて具体的な取組について考えたい。
釧路市は物を作ったり加工する2次産業の事業者・従業員が多くを占めている。そこに高付加価値を付けたモノづくりが出来ないかというのが市としての課題感。企業誘致や事業者支援はその対応のひとつ。ブランド化の取組もこれまでやってきたが、全国展開までとなると難しい面も多く、ブランド化にこだわるのではなく、良いもの・高いものを多く売っていくことを現実的に考えている。高付加価値化をひとつのミッションに、他地域から域内連関でお金を稼ぐためにも、特定分野に限らないが特に産業分野において考えていかないと

思っている。また生産者にもその意識を高めていただくことが必要と考えている。色々と環境の変化があり、色々な産業分野があるが、やはり釧路はものづくりの街なので、そこに重点を置いていきたい。

- 資料3の各課の事業について取組を説明いただいた後で、先ほどの質問があったと思うが、具体的にこれとこれに重点を置きたいといった説明があつて欲しかった。これから事業を考えるとのことだが、日本製紙が生産停止するまで地元企業はつらい思いをして検討していた中で、仕方がない部分もあると思うが、釧路市の対応としては遅いのではないか。令和6年度までの KPI の目標達成までに、今年度中に施策をしっかりと固める必要があるのではないか。
- 具体的な施策の段階まで至っていないことは申し訳なく思っている。日本製紙については市長と本社とこれまで話し合いを重ねており、現時点では日本製紙側からの跡地利用を含めたご提案を待っているところ。一方、既に生産が停止して雇用や物流などの問題があることも認識しており、何が出来るか担当部署が考えている。方向性など示せず申し訳ない。
- KIP においてコロナの影響が 50%近いと説明があつた。コロナの影響は誰も予測が出来ない部分が多いと思うが、令和6年度の達成に向けて、これをやれば乗り切れるといった戦略を教えていただきたい。
- コロナに対しては国の施策によるものが多く、市としては正しい情報を市民や事業所に伝えることで、これからの生活・事業を考えるうえでの基礎としていただきたい。収束するまではまだ時間を要するようだが、さきほど紹介した新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、事業者の皆さんにはなんとか倒産をせずに事業を継続していけるよう、元の状態へ戻るよう支援していきたい。人流によって影響を受ける産業があるので、感染対策がまず必要。特別な戦略はないが、感染を広げずに、元の状態まで戻し、そこから成長することが大事だと思っている。そこに必要な事業を選択していきたい。

(2) 地方創生推進交付金対象事業及び関連事業について

・事務局より【資料4】「令和2年度 地方創生推進交付金事業の実績」、【資料5】「令和3年度 地方創生推進交付金及び関連事業の概要」をもとに説明

(質疑応答)

- ◎ テレワークについて、これまで釧路は遠い・人が少ないという印象から、自然豊かで東京からの直通便もあり、都市機能やインフラも整備されているに変わり、むしろポストコロナでビジネスするにはトップレベルの環境だと思う。ただ住んでみなければわからない。施設を整備することは小さな取り掛かりとして重要だと思う。ハードはこれから整備するということが、ホームページや情報発信などの周知は整備後になるか。
- 工事はワクチン接種事業の関係で少し遅れているが、市内には民間のコワーキング事業者やサテライトオフィスの事業者がおり、準備はこれからだが、MOO の整備前にそれらの情報を情報発信したいと考えている。
- ◎ 環境は整っても、長期的にはビジネスニーズをマッチングしないと釧路で働いてどんないいことがあるのか、ハードの次にはソフトの支援が必要になってくる。新しい産業の切り口になる可能性もあり、ソフト面も重視して取り組んでいただきたい。
- k-Biz について、売上が上がった事業者数が記載されているが、売上額としてどれくらい増えているのか。又はどのくらいの割合で増えているのか。
- 実際の額及び割合は把握していない。ただ市としても把握の必要があると認識しており、手法として額がいいのか割合がいいのか検討しているところ。金額だと事業者の規模によってその効果を比較できないなど、まだ検討の余地があるが、挑戦していきたいと思っている。

- ◎ k-Bizに相談したことによってどれくらい経済効果があったのか、相談前と相談後の比較が額だけによらず出来るよ。売り上げは全般コロナの影響で落ちていると思われるが、k-Bizのサポートにより落ち込みが軽減されたなどの効果を把握できるよう、事業者への負担にならないようアンケートを工夫して取り組んでほしい。
- 行政としての公平平等の姿勢も理解はしているが、たくさんの資料と説明を受け、どこがポイントなのかと感じたところ。他の委員さんからも発言があったが、まち・ひと・しごと等、釧路市として何を1番重点に置いてやっていきたいのか、ポイントを絞ってやっていただければいいなと思ったところ。

釧路に転勤で来て1年半が経つが、素晴らしい街だと感じている。これらの魅力は外から来た人間が感じるところだと思う。

金融業界の立場からお話させていただくと、コロナの影響で飲食業界・観光業界中心に企業は大変な状況となっている一方、国の手厚い支援等により手元資金繰りについては潤沢な資金繰りの中で経営しているのかなと見ている。が、ここに来て飲食店が厳しい状況となっているので注意していかなければならないと思っている。そんな中、どこの町もそうであるが、人口が減少・事業所が減少していく中、金融機関はM&Aに力を入れてやっている。今現在のこの厳しい状況が実態であるというところをスタートとして取り組んでいる。釧路市においても今後明るい未来があるかという、現在そういう動きをしていかないとどんどん事業所が減少し、経済活動が縮小していくという危機感を持っている。自治体と銀行単体ではなく金融業界連携をもって、この街をどうやって支えていくのかももっと話し合いをしていかなければイチ民間機関・イチ自治体でこの難局を乗り越えるのは難しいのかなと感じている。釧路市でk-Bizが開設していることは素晴らしいと思う一方、k-Bizの説明を聞くと、相談に乗ってくれるしアドバイスをくれて、売上も増えるのだけど、継続的な長い目で釧路市を見ていただいているのかなと個人的に感じる部分もあった。釧路に根付いて、釧路市を長い目で成長させるためにk-Bizは何をやっていくのか、相当なお金を払ってお願いしているのだから、もっともっと資料の上でも、具現化して説明いただくのが重要だと思う。

釧路の石炭・紙パルプ・水産は厳しい状況だが、コロナが回復したら、豊かな自然を生かした観光事業やテレワークも民間の動きも活発なので、そこを市もよく見ていただいて事業を実施していただければ相乗効果があると思う。今後も協力体制をもって取り組んでいきたい。

- 人口減少を改善するのはホントに難しい問題だと感じている。人口減になっても、釧路に住んでよかったという政策を打たなければ、流出する一方かと思う。ひとりひとりの所得を上げて、豊かな暮らしをするのが市民の目的ではないかと思う。釧路では鶴居村だけが人口が増えている。鶴居村の美しい村というPRをもって外から若い人が来て、住宅を借りている。なぜ釧路に人が来ないのか、長期滞在では来ているが、ここに住みたいという目的がなければ来てくれない。長期的な戦略を立ててターゲットをひとつ絞って、目標値をもって取り組んで欲しい。

令和3年度の北海道くしろ地域・東京特別区交流推進事業で、釧路地域の自然や食資源・観光の資源について記載がある。コロナ禍においても観光施設には車が止められない位多くの方が訪れている。コロナと温暖化による暑さから北海道に逃げて来ている人が実際にいる。それだけポテンシャルがある。温暖化の中、釧路の強みである資源は自然環境なので、それを生かし外から人が再度来てくれるためのワンランク上の施策を行わなければならない。温暖化に対して、SDGsの考えで成長戦略のひとつとして施策を考えられないか。

- 人口減に対する人を呼び込むためのターゲットについて、総合戦略の基本目標3にもあるとおり、釧路に若い世代が住んで子どもを生み育てたいと思える街になると将来が見えてくると考えている。若者や子育て世

代の方々が経済的にしっかり自立できる環境を目指したいと考えている。子育て支援という部分では、鉚路市として取り組みは色々あるが情報が伝わりにくいなどの課題を指摘されていた。それらを解消するためのアプリなど、新しい取組を始めたところ。全世代に魅力のある街づくりが大前提ではあるが、今はこの世代に力をいれていきたいと考えている。

環境を生かした政策について、総合戦略はSDGsの目標とリンクしている形で考えているが、自然資源は観光の面だけでなく環境にまつわる企業に対しても強みになるものと考えている。SDGsは近年出てきた目標であり、市において政策にリンクしていくかはまだ協議が必要だと考えている。具体的な事業が示せず恐縮ではあるが、他の街にはない自然資源をどのようなかたちでアピールしていけるか考えていきたい。

- 新型コロナウイルス感染症の影響で学校・子供たちの活動にかなり制限がかかるなど影響を受けている。KPIの説明でもあったが色々なものが実施出来ない・達成できないという結果であった。今、足踏みしている中で何が出来るのかといったことが非常に大きいと考えている。これに関してはPTA連合会独自で出来るものではなく、きちんとした政策で導いていただき子どもたちにとって大きな成長のきっかけになる場面を創出していきたい。人口が減り子供たちの数も減っているが、この子供たちがこれからの鉚路を担う貴重な人材であることには変わりなく、キャリア教育や自然豊かな鉚路にプライドをもって、一度鉚路を離れてもまた戻ってくるようなそんな子どもたちを成長するような政策にも力を入れていただきたい
- ようやく鉚路市が子育て支援に力を入れてきてくれたことが、円卓会議など目に見えるようになってきた。ただ市民活動があって、市がそれに追隨している感じがし、後手後手感がある。女性就労支援講座を8年やっているが、ニーズが変わってきている。最初は主婦、次はプチ起業、転勤族、そして今は非正規雇用の単身女性となっている。ゼロをイチにすることから、ゼロをマイナスにしない施策をしなきゃいけないのではないかと。女性の就労支援をしている中で、雇用・商業分野だけでなく子育て分野など他の分野も関連がある。ひとつの予算に対してひとつの部署だけでなく、関連部署が連携して知恵を出し、民間とも連携を深めて欲しい。以前よりは改善されているが、まだまだ役所の部署の横のつながりが薄いと感ずるので協同して取り組んでいただきたい。道の総合開発計画は10年間の折り返し時点である今、コロナ禍の影響のある項目について1年以上かけて検討し計画に反映させた。そこまでやるのは大変だが、コロナの収束を待つのではなく、先に先に施策を打つ意識をより強く持っていただきたい。
- 潜在的に孤立する女性が出てきていることを肌感覚ではあるが認識している。9月補正で国の女性活躍交付金を活用し女性の生理用品を配ることを切り口に就労まではまだいかないが広げようと考えている。色々な側面のある方がいらっしゃるのでもひとつの課で対応できない部分が多いと感じている。庁内の横連携・民間との連携を強めることは重要でありクリアしなければならない大きな問題だと思っている。
人口減少の最近の状況を見ると社会減は相変わらず進学・就学のタイミングで流出するが、キャリア教育によって将来をどのように見ていくか、今の子供たちが考えていけるような力が付くよう取組んでいきたい。
- ◎ では振興局の地域創生部長がオブザーバーで出席されているので、一言を。
- 振興局としても鉚路市と連携して人口減少対策に取り組んでまいりたい。説明いただいた中で、移住者の把握というのが地味なように見えてとても重要だと思っている。移住者が何人いるかというデータがない。転入超過数があってもどのような理由で来ているのかの情報はなく、ぜひ情報を共有していただきたい。道の第2期総合戦略については昨年3月に策定した。1年半の間で状況は変わってきている。国でもまち・ひと・しごと基本方針の中でヒューマン・デジタル・グリーンという3つの柱で総合戦略への下地を行っている。道においても総合計画と共に総合戦略の見直しを行っているところ。ポストコロナを見据えた地方創生の推進、デジタル

化・脱炭素化など社会変化への対応、北海道総合計画など計画への整合性の3つの視点から見直しを進めており本年12月までに策定予定。こうした流れに振興局としても対応しながら、市町村の地方創生の取組にしっかりサポートしていきたい。

- 人づくりが大事だと思っている。キャリア教育で釧路の企業がどんな仕事をしているのか教えていくことに対し、例えば物流の会社といえば、トラックを運転している、水産会社であれば、船に乗って魚を獲っていると中高生は思っている部分がある。それだけでなく色々な人が様々な仕事をする中で、会社が成り立っていることを、小さいうちから知っていただきたい。そういったことが1次産業などへの理解につながると考える。またGIGAにより、1人1台端末を持つようになったので、紙の資料だけでなく、動画を用いて目に訴えることで理解を深めるなどの工夫が必要であり、市としても取り組んでいただきたい。PR活動に対して側面的支援も必要でないかと思っている。

今年度から大学生の奨学金を一部市と企業が負担することで釧路市の企業に就職を促すような事業が始まるので、経過についてこの会議で紹介してほしい。新卒者が何を就業に対して1番に考えているのか、就業者を増やすためにもその糸口を市と共に探していきたい。

- これまで小中高生の仕事理解については、職業体験のようなものしかなく、釧路にどのような企業があり、どのような仕事をしているのかまでは出来ていなかった。わかりやすい動画なども必要性を感じるので検討していきたい。

令和4年度事業として奨学金返済支援制度を新設する。令和4年度からの採用する方に対し、奨学金の残額の1/3を釧路市、1/3以上を企業、残りをご本人が負担するという制度。登録企業は今現在19社あり、業種的には建設業が多い。就職先を探している学生がどのような情報を求めているのか、どこを重点を置いて考えているのか、情報収集し、協力企業にフィードバックできるような仕組みを考えていきたい。

- ◎ それではすべての議事が終了したので、進行を事務局にお返しする。

4 閉会

(了)